

特定サービス産業実態調査（結婚式場業）

1 件の挙式・結婚披露宴326万円，キリスト教式が主流

地味婚が定着している昨今，豪華な結婚披露宴があった。有名芸能人藤原紀香さんと神田うのさんのそれぞれのカップルの5億円から6億円といわれる披露宴が開催されテレビ視聴率も高かったようである。さて，我々，一般人の結婚式はどうなっているのでしょうか？結婚式場業界を覗いてみましょう！

結婚件数が多かった時代は，先ず，第2次大戦後の93万件（1947年）である。最大のピークを迎えるのは団塊世代の婚姻期（1970～74年）で各年とも100万件を超えている。その後，徐々に減少するが，団塊ジュニアの婚姻期（2000年前後）に80万件に回復し，そして現在の71万件に至っている。この経年変化をみると戦後とその20年後にピークを持つ2コブラクダの背のようである。

茨城県における平成17年の婚姻件数は15,534件（1日平均43件）。このうち挙式と披露宴を一括請負した業者の取扱件数は6,405件で婚姻件数の41%となっている。

残りは調査の対象外となっている挙式のみ，披露宴のみ，届出のみと思われる。

茨城県における，ここ10年の結婚式を行う事業所数は約50所前後で横ばい傾向にある。内訳としては，式場を主業とする事業所22所，ホテル・旅館が兼業する事業所21所，その他9所となっている。

就業者数は宴会・企画管理・調理部門などのリストラを進め，10年で34%減少し2,095人となっている。また，年間売上高も23%減少し208億円となっている。これは取扱件数が15%減少していることに加え参列者150人以上の挙式が大幅に減少する反面，参列者50人未満が伸びるなど参列者の少数化現象が起きており，引き出物や飲食費の大幅な売上減少の原因となっている。

これに伴い営業収益率も48%から15%にまで落ち込んでいる。

挙式形態別には，神前式が10年間で86%と大幅に減少し1,000件を割り込んでいる。これに替わりキリスト教式が主流となっており3.5倍増加し，全体の68%を占め挙式の洋風化が進んでいる。

また，伝統や習慣にとらわれない自由なスタイルの人前式は600件とまだ少数であるが2.3倍と増加しており，今後の伸びが期待できる形式として注目される。

都道府県別にみると，結婚式場は若者の多い大都市部に立地し，東京（184），愛知（147），福岡，大阪の順となっており，茨城は26位である。但し挙式・披露宴1件あたりの売上高は山梨が最も高く374万円で，次いで福島が2位で，茨城は326万円で5位となっている。これは東北各県と茨城，栃木では参列者が100人以上の件数が多く，挙式費用も300万円以上の割合が4割を超えており華燭の宴が名残を止めている。一方，関西地方（京都，大阪，兵庫，奈良など）は100人以上の件数は1割未満となっており，ごく内輪の人々でお祝いをしている。

葬式も同様の傾向があり冠婚葬祭は東が派手，西が質素という特徴がみられる。

表 茨城県の結婚式場業の推移

	茨 城 県			全 国
	平成 8 年(1996)	平成 14 年(2002)	平成 17 年(2005)	平成 17 年(2005)
事業所数	49	56	52	2,826
就業者数(人)	3,158	2,659	2,095	98,668
年間売上高(百万円)	27,142	22,865	20,868	891,146
飲食料	12,586	10,174	9,277	388,538
引き出物	4,462	3,250	2,489	88,932
貸衣裳	3,105	2,804	2,420	115,332
年間営業費用(百万円)	14,242	20,317	17,735	778,194
挙式・披露宴数(件)	7,538	6,604	6,405	351,055
神前式	5,908	1,429	815	63,901
キリスト教式	1,246	4,024	4,363	209,129
人前式	255	534	604	40,731
1件あたり売上高(万円)	360	346	326	254
1事業所売上高(万円)	55,393	40,825	40,131	31,534

*資料：特定サービス産業実態調査（経済産業省）

*事業所数などの数値は母集団でなく集計件数（回答率98%）